

講演名	平成19年度 秋期研修会 ～北の技術を語り継ぐ 講演1:「新エネルギーへの取り組み～北海道の現状と展望～」 講演2:「北の新エネルギーの現状と今後の展開方策」
講演者	講演1: 北電総合設計株式会社 環境部 技師長 船越 元 氏 講演2: 北海道大学 大学院農学研究院 教授 松田 従三 氏
日時・場所	平成19年11月20日 15:00～ (KKRホテル札幌)
講演概要	

■ 秋期研修会 ～北の技術を語り継ぐ

講演では、新エネルギーの定義から始まり、京都議定書、バイオマス、そして北海道における展開と基本的な事項から我々の今後の活動への指針となる話題が展開され、非常に興味深いものでした。

環境問題から注目を集めるバイオマスですが、バイオエタノールの生産については、生産・投入に対するエネルギー効率が必ずしも良いとは言えないことや、食用穀物の利用により食糧問題を引き起こすことも懸念されるといった様々な課題があるとのことでした。

一昔前までは糞尿による環境汚染が問題でしたが、現在は、家畜糞尿対策の一環として、道内各地で家畜糞尿によるメタンガス生産に取り組まれる事例が増えているとのことでした。(道外では污水处理の一環としてバイオガスプラントを活用し、浄化装置のエネルギー源として利活用している事例もあるとのこと)

いずれにせよ、バイオマスの取り組みについては、エネルギー効率性の問題など、現段階では課題も多く、小規模生産・消費、地産地消などのバイオマスエネルギーに適した運用システムを構築する必要があることが示されました。

その一方で、エネルギー政策において海外との交渉のカードとしてバイオマス技術の重要性を挙げられ、バイオマス生産に関する技術の蓄積と伝承の必要性や、休耕地(特に水田)を保全し、いつでも農作物が生産可能な状態を保持していくことで、国内でのバイオエタノール生産に長期的に取り組んでいくことが必要であることについてもご提案されました。

また、海外でバイオマスの活用が進んでいる一番の要因は生産農家に対する補助金の有無であり、国内においても補助金がなければバイオマスの開発は進まないだろうという話には、非常に考えさせられました

■ 意見交換会

研修会には学生の参加もあり、意見交換会でも技術的な話題が青年技術士と学生の間で交わされていました。



船越元氏による講演



ご講演いただいた松田従三氏



講演会の様子